校長室だより

２０２２年２月１８日
校 長　小崎（こさき）　功二（こうじ）

学校 HP

学都仙台

「がくと仙台」と言うと，最近では「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」や「仙台クラシックフェスティバル」の際に「楽都仙台」という表記をよく目にするようになりました。私もジャズフェスには毎回参加しており，「楽都」の恩恵を受けている者の一人ですが，「学都仙台」という表記が元祖です。これは，仙台市役所が，学術・教育事業，政策等に関連して用いたキャッチコピーから普及した言葉ですが，「学都」という言葉自体は全国的・一般的に使われており，仙台市は，公立・私立を含め，高等学校や大学が比較的多く，学生も多いことから，古くから「学都」と呼ばれてきました。

先日，高校時代の友人と，オンライン同窓会で久しぶりに話す機会がありました。その中の一人で，大学卒業後は仙台を離れ，商社マンとして世界中を舞台に働いてきた板橋君から，ふと，高校の先輩である井上ひさしさん（故人）の名作「青葉繁れる」の話題が出て，盛り上がりました。昭和４９年にはテレビドラマにもなり，その後，岡本喜八監督・草刈正雄さん主演（秋吉久美子さん・ハナ肇さん・十朱幸代さんなど豪華キャスト）で映画化もされました。

板橋君は，仙台を離れた後も，世界のどこにいても，仙台で過ごした学生時代の思い出，特に高校時代の楽しかった記憶が心の支えとなり，今の自分につながっていることや，自分たちの高校を舞台として描かれた「青葉繁れる」を改めて読み返しながら，あの頃のことを思い出していることなどを，しみじみと話していました。学生時代を仙台で過ごし，その後は世界を舞台に頑張ってきた彼の話だったからこそ感慨深いものがあり，彼と共に学んだ高校時代に思いを馳せながら，私も「青葉繁れる」を改めて読み返してみました。

私の高校生時代は，井上ひさしさんより 20 年以上後なのですが，この作品に描かれている学生を大切にする町の雰囲気や，多感な高校生の息使いは変わらず，懐かしさに胸が高鳴りました。改めて名作だと思いましたし，母校や地元が舞台となっていることで，より感情移入しながら読むことができ，楽しかった学生時代の記憶が蘇りました。

また，この小説に描かれている教師と生徒の関係性には，校種は違うものの，教育者の姿勢として共感できるものがあり，現役教員として，自分がこれまで子供たちと接する際に大切にしてきたことと重なる部分も多々ありました。小説の中の教師たちは，生徒の人格を尊重し，様々な個性や立場や感情などを理解しようと努めているように感じられます。時には問題行動に直面し，締めるところは締めながらではあっても，彼らは生徒と「自由」という同じ価値観を共有しているのです。ある時期の学生運動の一部に見られた過激な行動には問題もありましたが，旧制中学時代から脈々と息づく，質実剛健，自重献身，自由と責任を重んずる学都仙台の礎は，このような先人たちによって守られ，受け継がれてきたのだと思います。

学生を大切にする町仙台で，私もその恩恵を受けながら成長しました。今，教員の立場で顧みると，目の前の子供たちに対して，現代の時流の中では，どのように接し，どのように働きかけることが望ましいのだろうか，という葛藤もあります。しかし，私が学都仙台で受けた教育の中で深く心に刻んだ「自由」という理念は，どの時代にあっても，普遍的なものであると信じています。

今はまだ幼い子供たちですが，郡山小学校の子供たちには，この学都仙台で学べる喜びを胸に，自分を律し自分のために学ぶ「自由」を大切にしながら，今後様々な進路で活躍していってくれることを期待しています。

私たち郡山小学校の教職員は，常に子供たちにとっての理解者であるよう努めながら，子供たちの学びを支えて参ります。

切 り 取 り 線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと　など

2022 年 2 月 18 日（　）年（　）組 児童氏名